



FISCA

友 情
第 38 号

富士宮国際姉妹都市協会

Fujinomiya International Sister City Association Sister City News Volume 38



交換学生事業ウェルカムパーティー



一年を振り返り

会長 望月達也

最初に本年も協会の活動では多くの方のご協力をいただき心から感謝申し上げます。一年、あっという間に協会の事業は終わって行きましたが、振り返ると感慨深いものが多く、また多くの市民

や学生がこの協会を通して国際感覚を養い、GDP世界5位のカリフォルニア州、その中のサンタモニカ市との友情を深めていただいたことと思います。

事業ごとに振り返ってみます。交換学生事業は新学期が始まると早々に周辺地区の学校に応募の手配を行いました。毎年女子学生の応募が多いのですが、本年度は富士宮西高校の遠藤君が、交換学生としてサンタモニカに訪問してくれたのも頼もしく良かったと思います。サンタモニカハイスクールの学生が2名でしたが、他2名の女子学生も皆で仲良く節度を持って行動でき良かったと思います。ハンドメイドのウェルカムパーティも理事からのドネーションもあり、試行2年目ですが上手に機能していたと思います。次回からはもっと新しいことを取り上げて、市民の皆様の参加も多くなるようなイベントを考え、呼び込んでいけたらますます良いものになっていくと思います。

9月の親善訪問団では市長を団長に、ミス富士山の2名を含め総勢26名が3泊5日で渡りました。協会としては初めてサンタモニカ市内に宿泊しました。NATさんの友情を感じながら、大勢の方々にウェルカムパーティーをリビエラカントリークラブで開いていただき、皆さんからの友情を深める宣誓を受け、大変感動的な会でした。私自体3回目の訪問ですが、最初の訪問で1泊ホームステイしたDEERING夫妻も、

サッカーで来宮した映画監督のVincentさんたちにも明るく出迎えていただき有意義な時間を過ごせました。金額も20万円以下で、ドジャーズ観戦も楽しめた旅行にできたことは、皆様に経済的な面でも感謝するところです。次回、オリンピックイヤーの2020年には、45周年を記念して学生のサッカーチーム及び訪問団の相互派遣が計画されています。今回よりももっと盛り上がるようお得感満載で実施したいと思いますので、一般市民の皆様、積極的に参加していただきますようお願いいたします。

10月のACCさんとの中学生英語スピーチコンテストも前年の倍近くの中学生に壇上で発表していただきました。レベルも上がり、次回も盛り上がることでしょう。

今年4月にはサンタモニカから40名程度の高校生が来宮し、2泊のホームステイを予定しています。一昨年同様多くのご家庭のご協力が得られることをお願いいたします。

最後であります。協会を支えていただいた、市民、会員、理事、市役所の方々に心から感謝申し上げます。これからも、変化しながら前に進んで(INNOVATE)いく協会にしなければならぬと思っております。この交流がアメリカ・サンタモニカ市と50年、100年と続くことを祈願しております。



サンタモニカ交換学生事業



2018年7月21日(土)～8月3日(金)

富士宮市の高校生渡米／サンタモニカのペア学生宅にホームステイ

2018年8月4日(土)～8月17日(金)

ペア交換学生と一緒に帰国／富士宮市で各学生宅にホームステイ



平成30年度 交換学生



写真左から 稲葉 稔音 (星陵)
渡辺 若葉 (吉原) 遠藤 駿介 (富士宮西)



Karina Wisen
(サンタモニカ高校)



Jackson Salumbides
(サンタモニカ高校)

夏休みの
4週間をペア学生と
一緒に生活



家族に見送られ…。



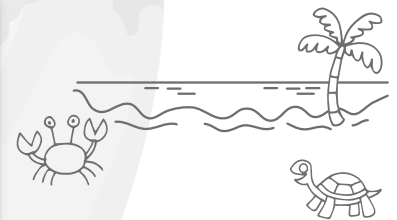
羽田空港出発直前



ロサンゼルス空港到着！



あっという間に仲良くなりました



サンタモニカ市滞在中の様子



みんなでユニバーサルスタジオ・ハリウッド



サンタモニカ市長を表敬訪問



サーフィンを観戦！

富士宮市滞在中の様子



2週間のホームステイを終え、帰国！



宮おどりで異文化体験



天気がまいちでしたが、宝永山散策



陶芸体験。作品作りに没頭



自分たちで作る焼きそばは絶品！



須藤市長を表敬訪問



ウェルカムパーティーでは、日本舞踊を体験



外神東公園。サンタモニカの小径にて



サンタモニカ講座。アメリカでの体験を発表！



交換学生の先輩も来てくれました

Fabulous summer

いな ぼ ね ね
稲葉 稔音 (星陵高等学校)



アメリカは幼いころから私のあこがれの場所でした。行きたいところ、将来住みたいところ、働きたいところ、アメリカは私にとってまさにかけがえない場所でした。そんな私に飛び込んできたのがこの姉妹都市交流事業でした。この話を聞いた瞬間、応募するほかないと思いました。

実はアンバサダーとしてサンタモニカを訪れる前に一度だけサンタモニカに行ったことがありました。

正確には2～3時間程しか立ち寄ることができなかったのですが、ピアが印象的で海がきれいな街、というイメージがぼんやり残っているだけでした。それでも「こんなどかな所で暮らせたらどれだけ素敵だろう」という気持ちになったのは



とてもよく覚えています。だからアンバサダーに選ばれたときは本当に嬉しかったです。

私はすぐにホストシスターのカーリーナに連絡しました。ペットの話、趣味の話、アメリカで何をしたいか、日本の何に興味があるのか、色々な事を話しました。行く前からワクワクが止まりませんでした。

初めてカーリーナにあったときは、ずっとチャットをしていたせいか初めて会った気がせず、すぐに打ち解けることができました。

カーリーナは明るく好奇心旺盛で、サーフィン、テニス、吹奏楽、手芸など趣味がたくさんあります。なので私をサマーキャンプに連れて行ってサーフィンを教えてくれたり、キャンドル教室と一緒に参加したり、ピアノを演奏したりしてくれました。カーリーナも夏休み中のため、毎日二人で様々なアクティビティーをしました。またホストマザーのヒラリーは子供のころにこの事業に参加し、富士宮に行ったそうです。日本が好きでいつも色々な話をしてくれ、楽しく過ごすことができました。ホストファザーのデイビットは船を出してくれました。サンタモニカのビーチを海側から見るのができたのはとても贅沢な体験でした。みんな優しく温かく私を迎え入れてくれ、これ以上ない最高の夏を過ごすことができました。

日本ではカーリーナが日本食を覚えて帰りたいと言ったので、おにぎり、味噌汁、手巻きずし、焼きそば、お好み焼き、餃子など一緒にいろんな日本食を作りました。特におにぎりは毎日練習して、最終的にはきれいな三角のおにぎりを作れるまでになりました。帰ってすぐに家族におにぎりを作った様子を送ってくれました。ほかにも御神火祭りや宮踊りに参加したり、伊東の海で遊んだり、花火大会を楽しんだりしました。

カーリーナは学校ではスペイン語を選択しているため日本語が全く話せません。それでもいつも私に「これは日本語でなんて言うの？」と聞いてくれ、私の家族と話すときも頑張って覚えた日本語を使おうと努力してくれました。

アメリカで2週間暮らして、以前より増してアメリカが好きになりました。

歩行者に対して車が止まってくれたらピースサインを送る、自分の意見をはっきり表明して納得させようとする、などといった人間性がとてもいいなと思いました。また、知らない人でも困っていたら助け合っていたのが素敵だなと思いました。温暖な気候やゆったりとした時間の流れがそういった人柄を形成するのではないかなと思いました。日本にもこういった風潮があれば素敵だと思います。

カーリーナと空港で別れるとき、現代ではスマホで簡単に連絡を取ることができるせいか、あまり悲しさは感じませんでした。この事業を通して日本とアメリカはあまり離れている感じがしなくなったのかもしれない。なぜかカーリーナとはまたすぐに会えるような気がします。



僕のスタートライン

えん どう しゅん すけ

遠藤 駿介 (富士宮西高等学校)



自分らしさって何だろう。人と比べて秀でている点。一体自分の良さって？そもそもそんなものが、僕にあるのだろうか？こんな風に感じていた高1の冬の終わりだった。

家から歩いて5分の高校に通い、別に夢中になるものもなく、気付けば僕は、別段何の面白味もない毎日をただただ漠然と過ごしていた。そんな僕に母は業を煮やしたのか地元のラジオ局から聞いたと言ってサンタモニカ市との交換留学の話を持ち掛けてきた。勿論、行った事のないアメリカには興味があった。自分の英語力がどれ程通用するものなのか、試したい気持ちもあった。しかしやはり一番の理由はこの交換留学で今までの自分を変えたい、変わるきっかけになればいいなど期待したからだ。退屈な毎日に変化が欲しかった。高2になるとすぐに選考の面接があった。無事に交換留学生に選ばれたのはラッキーだった。それからは不安と期待と楽しみが日に日に膨らんで毎日に張り合いが生まれた。と同時に今までに感じた事のない緊張感でいっぱいだった。

いよいよ出発当日、見送りに来てくれた父から、「楽しんでこいよ」と言われ、僕はフツと気持ちが軽くなった。交換留学＝ハードワークという固定概念で縛られていた僕の心に余裕が生まれ、大きな高揚感と期待を胸に日本を飛び立った。

ロサンゼルス空港ロビーでホストファミリーの温かい歓迎で始まった2週間の滞在。僕とペアであるジャックは



交換留学生として出会った訳だが僕等はそれを超えていた。国籍さえ違えども純粋に互いが昔からの友達の様であり、ジャックと密に生活を共にしたがゆえに、気付けたことが多かったのも事実だ。

ここで、特に自分の力になったと思うエピソードがある。ホストファミリーに僕は中学まで野球をしていて野球

好きだと伝えてあった。するとなんとメジャーリーグ、地元ドジャースの試合を見にドジャーススタジアムまで連れて行ってくれたのだ。日本と違い応援団などはなく、拍手と歓声だけのスタジアム。僕が日本人だとわかると周りの観客から次々と話し掛けられた。僕はとても驚いて緊張してしまっ、自分の発した英語も不十分だったし、相手の言ってる事も完璧には理解できなかったけれども僕なりに必死でジェスチャーをまじえて英語を伝えようとすると、相手にも伝わり、ゲームの終わる頃には握手やハイタッチ、ハグまでして現地の人と感情を共有できた。あの

時のあの空気感は完全に一体化していた。

そして僕は気付いた。

コミュニケーション能力と語学力は全く別物であるということ。そして僕は自分の気持ちを伝え共感してもらえる事が何より好きだという事を。もちろん英語力がなければ英語圏の人とは話せないし、伝えられない。しかし自分の考えや主張を表現するために一番必要なのは、何より強い意志や勇気だと感じた。相手に伝えたいという熱意。表現には試行錯誤しながらも対話しようとする手段を瞬時に割り出し体現する能力。これこそが大切なのではないかと気付いたのだ。日本に帰ってから、アメリカで気付いた自分の新しい可能性を試すため、先生の誘いを受けてディスカッションのコンテストにも出場。思いがけなく県大会で優勝することもできたし、ラジオの生放送にも出演させてもらった。僕はこれからも自分の可能性を増やしていきたいし、サンタモニカで経験した勇気と表現力をどんどん伸ばしていきたいと思う。

実はもう一つ気付いたことがある。それはジャックは(アメリカ人は)いつでも気軽に、それも何度も感謝の言葉を身近な人に伝えているということだ。彼は家族や友人、地域の人達などに笑顔で気さくに『サンキュー』を繰り返す。これはアメリカの国民性だと思う。果たして僕は(日本人は)身近な人達に「ありがとう」と言えているだろうか。一番伝えなければならない両親はもちろんのこと、先生や友達にもそんなに言えていない。今回の交換留学事業では協会の方々にも大変お世話になったし、それ以前にこのチャンスをいただけたことに感謝している。いつか必ずお返ししたいと思っている。生涯の友のジャックとは大人になって再会することを約束している。今から楽しみだ。いつ会うことになっても恥ずかしくないように、一日一日を全力でチャレンジしていきたい。

今回の交換留学では英語力の向上はもちろんのこと、様々な出来事から多角的に刺激を受け、自分の可能性を感じることができたし、自分の好きな事を発見できて少しだけ方向性が見えた気がする。

もう高1のころの単調な生活には戻らない。約束する。そう気付かせてくれた交換留学に感謝を忘れず生活していく決意だ。



最高の夏！ Santa Monica x Fujinomiya わた なべ わか ば 渡辺若葉 (吉原高等学校)



私がこの事業を知ったのは高校一年生の時でした。説明会に参加して過去の交換学生の話聞いてとても魅力を感じたため申し込むことを決めました。高校二年生の夏は学校行事のオーストラリア研修と日程が重なってしまい申し込むことができませんでした。なので私にとっては今年がラストチャンスでした。面接を受け合格通知が届いた時はとても嬉しかったです。

私はアメリカに留学に行くことに対して大きな心配事はなく、決まった時からワクワクしていました。しかし、日本側の学生との初の顔合わせの時に私にはサンタモニカ側の学生バディーがいなかったことを知らされました。聞いた瞬間は少し戸惑いましたが楽しみという気持ちの方が大きくてそんな戸惑いはすぐなくなりました。日本側の学生は私を含め3人で、性別も違い学年もバラバラでした。出発するまで全く話したことがなく仲良くなれるか心配でしたが2週間アメリカで一緒に過ごして日本に帰って来た時にはとても仲良くなっていました。

初日ロサンゼルス空港に到着し、すぐに私たちはそれぞれのホストファミリーと行動しました。ホストファミリーの家に着き「今日からここはあなたの家だから自由に過ごしていい」と言われ、家族の一員として受け入れてくれたのだと嬉しくなりました。マザーは平日仕事で忙しかつたので私は稔音ちゃんか駿介くんたちと行動することが多かったのです。マザーが仕事から帰って来た後に一緒にスーパーに買い物に行ったりしました。毎日たくさんのプランを立ててくれて退屈する日は1日ありませんでした。ホストブラザーは大学生で過去にこの事業に参加したこともありとても日本のことが好きでした。マンガやアニメの話やアメリカと日本の文化の違いを話したりしました。マザーも日本食に興味があると言っていたので作ってあげたかったのですが、毎日予定がぎっしりで作ってあげられる時間がありませんでした。

毎日のように観光、ショッピングは楽しくてピアからすぐ近いプロムナードには何度も行きましたが飽きることはありませんでした。

休日に稔音ちゃんのファミリーと一緒にボランティアでフードバンクに行ったこともありました。貧しい人のために配る食料を箱に詰める作業でした。直接貧しい人と接したわけではありませんが、このようなボランティアをしたのは初めてだったのでいい経験になりました。

他にもサーフィンのUSオープンに行ったりハリウッドに観光に行ったりしました。テレビでしか見たことない場所に実際に行くことができ嬉しかったです。

以前私はサンタモニカ高校の修学旅行生のホームステ

イを受け入れたことがありました。その学生とは今でも連絡を取っていて今回のサンタモニカ留学が決まった時に報告をしたら、ぜひ会いたいと言ってくれました。

私がい物をするのが好きだと知っていた彼女は、ショッピングモールに連れて行ってくれたり、サンタモニカ高校を案内してくれました。彼女がホームステイに来た時サンタモニカ高校の写真を何枚か見せてもらいましたが実際に行ってみたら想像以上の広さで驚きました。夜は彼女の家に行き家族に会いました。初めてあった彼女の家族は私のことをとても歓迎してくれました。時間があまりなく十分に話すことはできませんでしたが、次に来た時は泊まってねと言われてとても嬉しかったです。

最後は5人でユニバーサルスタジオハリウッドに行きました。その時初めてちゃんと5人で写真を撮りました。私はこの時の写真が大好きです。

アメリカに滞在した2週間で数え切れないほどの思い出ができました。

2週間は長いようでとても短くて今までにないくらい充実した日々でした。

日本に帰る日、私のマザーは仕事の都合で空港には来ることができませんでした。ですが朝「空港には行けないけど泣かないで別れよう、日本食は次来た時に作って」と言われました。その時私はまたサンタモニカに行くことを約束しました。

私たちはあっという間に日本に帰って来ました。カーリーナとジャクソンが日本に来てからもみんなでカラオケに行ったり卓球をしたりゲームセンターでプリクラを撮ってクレーンゲームに夢中になったりマリオカートで勝負したりと楽しく過ごしました。最後はちょっとしたフェアウェルパーティーでタコパをしました。

日本での2週間もあっという間に過ぎて2人を見送るために空港に行った時、私たちは泣きもせず明日も会えるかのように普通に「ばいばーい」と言って別れました。

また近いうちに会える気がしました。

それくらいこの4週間でアメリカが身近に感じるようになりました。今までは遠い遠い国だと思っていましたが、今ではまた行ける、もう一度早く行きたいと思っています。国を超えても頼れる家族や友達ができることがアメリカを身近に感じるようになった理由の1つだと思っています。

平成最後の夏、私にとって高校生活最後の夏はたくさんの人に出会い支えてもらい、貴重な経験ばかりの夏でした。一緒に留学に行った2人にはたくさん助けてもらいとても感謝しています。市役所の方、協会の方にも感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



交換学生事業参加者の声…

学生アンケートから…

1. 事業に参加してよかったことは？

- ★国を超えて友達ができ、英語も上達した！
- ★自主性・積極性が向上した。
- ★新しい目標ができた。

2. ホストファミリーはどうだった？

- ★優しくった。色んな所へ連れて行ってもらい、家族のように接してくれた。感謝しかない！
- ★優しく丁寧に迎え入れてくれた。

3. アメリカの学生を受け入れて…

- ★改めて日本の良さを見つけることができた。
- ★普段味わえない日常生活、毎日が新鮮だった。

4. 未来の交換学生へ一言！

- ★1日1日を大切に！ホストファミリーは優しいので、ナーバスにならなくても大丈夫！
- ★サンタモニカ最高！！現地の人も温かい！
- ★自分の意志をはっきり伝え、一日一日を大切に！



保護者の声…

- ★国は違っても同世代の子を持つ親の気持ちは同じ。外国に送り出すときは不安もたくさんあるが、ホストファミリーにはとても親切にしてもらい安心した。
- ★受入に不安があると思うが、おもてなしをする必要はなく、普段通りでよい。
- ★英語が話せなくても、積極的に関わろうという姿勢が大事。
- ★子どもが積極的、行動的になった。将来についても考えるようになったと思う。
- ★学生本人だけでなく、家族にとってもいい経験となった。

交換学生事業とは…

夏休みを利用して、サンタモニカの学生とペアを作り、お互いの家庭に約2週間ずつホームステイをするという事業です。約1ヶ月間、ペア学生と共に生活することで、英語力の上達はもちろんのこと、一生の友達ができるなど、当協会のメイン事業の一つです。

協会から、渡航費の一部補助もあります。詳細は最終ページをチェック！！

サンタモニカ市親善訪問団派遣

2016年以来、2年ぶり、19回目の訪問団を派遣しました。

サンタモニカ市親善訪問団 日程

9/20(木)	出発式、ロサンゼルス空港へ → サンタモニカ市へ → 歓迎レセプション
9/21(金)	サンタモニカ市長表敬訪問 → ロサンゼルスへ → 野球観戦・夜景ツアー
9/22(土)	ロサンゼルス観光(自由行動)
9/23(日)	ロサンゼルス空港 → 帰国(到着は24日)



小学生も参加。行ってきます！



Fujinomiya Douri 発見！



映画の舞台にもなったレストラン



姉妹都市締結にご尽力いただいた SGI-USA



将来のミス富士山？

総勢二十六人で、
サンタモニカを訪問
心温まる歓迎を
受けました



メジャーリーグ観戦！いい試合でした！



レセプションで交流を深めました



世界的に有名なゴルフ場「リビエラカントリークラブ」



サンタモニカ市長を表敬訪問

姉妹都市サンタモニカ市親善訪問団に参加して

うえ まつ とし みつ
植松 敏 光

平成30年9月20日から24日迄3泊5日の日程となるアメリカ西海岸のサンタモニカ市親善訪問団に参加させて頂きました。

姉妹都市訪問と言っても、サンタモニカ1泊ロサンゼルス2泊で堅苦しさは感じない観光旅行と言うイメージで参加致しました。

メンバーは主催者である富士宮国際姉妹都市協会の会長を始め、富士宮市長やミス富士山の2名を含め25名、そして現地での合流者1名を加え総勢26名でしたが旅慣れた方達ばかりで、非常に統率のとれた時間厳守の団体行動には敬服した次第です。

私自身、日本語以外は全く話せず、海外旅行は近隣諸国への団体旅行のみで「中国」「タイ」「香港」「インドネシア」等10回の経験で、「タイ」が2回「中国」は6回でしたが中国は広く「上海」「嘉興」「紹興」「北京」「杭州」「広州」「無錫」「蘇州」「烏鎮」観光だけです。

今回参加した動機は、歴史ある国際姉妹都市協会主催で市の職員も同行する事から、初めての米国でも安心して付いていけると言うこと、そして米国旅行では人気ある都市と言われる「ロサンゼルス」観光に「メジャーリーグ観戦」と言う千載一遇のチャンスがあった為でした。

さらに、日程の組み方も富士宮発が午前11時、富士宮着が午後8時30分と身体的負担が少ないスケジュールになっていたからです。



問題は成田からの直行便とはいえ片道10時間以上のフライトに耐えられるかでしたが、邦画等の映画鑑賞で時間を活用、そして逆に眠らない(うつらうつら状態)事が時差ボケを防いでくれたようです。

機内で時差の確認が出来る様にサッカーの本田選手の真似をして左手首に日本時間、右手首には米国時間に合わせた腕時計を準備しました。

ロス到着はほぼ予定通り、入国審査は事前に聞いていた「想定質問」のみで意外に簡単に済み足取りも軽く異国の地での第一歩を踏み出しました。

サンタモニカでの両協会の親善レセプションは知る人ぞ知るゴルフの名門コースで特にコースの美しさは全米でもトップクラスと言われている「リビエラ・カントリークラブ」で行われました。

翌日はサンタモニカ市庁舎訪問、市議会会議場を見学後お隣のロサンゼルスに移動しホテルで休憩後に私は

メジャーリーグ観戦に行きました。

ドジャー球場ではドジャーズ対パドレス戦を観戦し定番の「ドジャーダック」とビールを堪能しましたが、残念ながらゲームではマエケンの登板はありませんでした。

今回の訪問では2日目の夜と3日目は共にいくつかのオプションツアーから観光選択出来ましたので、3日目はロス市内観光を希望し前日に車窓見物



したハリウッドの散策と大型バスでは入れないビバリーヒルズ等の観光地巡りを満喫しました。

少し残念だったのはサンタモニカでの昼食や宿泊ホテルの朝食が期待外れで、ロスのリトル東京やリトル大阪の日系スーパーでカリフォルニア・ロール等を購入しグルメはカバー出来ました。

最終日には空港行きのバスが遅れると言うアクシデントがありましたが、出国手続き等への影響も無く空港でお土産を物色する時間も確保出来ました。

今回の親善訪問に際し、事前説明が2度開催され渡米準備や注意事項等の説明もして頂いた事から不安なく楽しんで日程を熟す事が出来ました。

参加者全員が予定通りに無事帰国し、このような旅行記を書いていられるのも市の国際姉妹都市協会事務局員の手厚いフォローの賜で深く感謝すると共に旅行中3日間部屋を共にしたKさんには私の『躰』で大変ご迷惑をお掛けしましたことをお詫び致します。

2年後の次回親善訪問も自分の体力に自信が持てスケジュール調整が出来るなら再度の参加を検討してみたいと思います。



親善訪問団に参加して

さ の よ し ひ ろ そ う い ち ろ う
佐野吉弘・壮彦朗

家族旅行も兼ねて、妻と息子と3人で参加させて頂きました。私たち夫婦は、西海岸は初めてで息子は海外旅行自体が初めての経験です。期待も不安もたくさんありましたが、楽しくいろんな経験をしてしようと家族で話し合っていました。

出発当日は生憎の空模様で少し肌寒く、まさに英語の話せない私の心の中を映し出しているようでした。そんな不安をよそにバスは成田へ、そしてあっという間にロサンゼルス空港に到着です。入国審査では私の不安と緊張はピークに到達。審査官から話しかけられてもおどおどするばかり。見かねた息子が英語で対応、その場は事無く済みました。息子に対する私の威厳がここで5%下がったのは言うまでもありません。トホ。

そんなこんなではありますが、空港を一步出ると別世界、



太陽が眩しくとても暑い。BIGな建物にBIGなアメリカ人、そして燃費の悪そうなBIGな車。見るもの全てが新鮮(それでも結構日本車走ってたな)で空港での出来事なんか大したことないなと思いました。

さて、最初のアクティビティーはランチタイムです。「ホーム

タウンビュッフェ」という地元レストランでの食事。野菜・肉・肉・肉・スイーツといった品揃えで、やはりここでもBIGというのが印象的でした。早々に済ませ次に向かったのは隣のスーパー「トレーダージョーズ」です。これといった土産もないサンタモニカでは、このスーパーにあるエコバッグが代用品として喜ばれているそうです。

話はそれますが、息子が店員さんと普通に会話をしているのです。息子すごいな。私の威厳は更に5%下がりました。トホホ。

さて、おふざけはここまで。いよいよ訪問団としての役割を果たす時がやってまいりました。ホテルに到着後、スーツに着替え最初に向かったのはSGI-USAです。姉妹都市提携を結ぶきっかけとなったのがここからなのだそうです。次に、リビエラカントリークラブにて歓迎レセプションに出席。市長を含め双方の協会役員が挨拶。

その後プレゼントの交換とその披露が行われました。程よい緊張感の中、レセプションは終了しホテルには22時過ぎに到着しました。

2日目はサンタモニカ市長表敬訪問です。庁舎内議場にて両市長挨拶、記念品の贈呈を行い、親睦を深めました。その後サンタモニカピアにあるババガンプで昼食をとり、ロサンゼルスへ向かいました。

グリフィス天文台夜景ツアーの前に腹ごしらえです。望月会長の計らいで、ローリーズのステーキを堪能してきました。私はこの日誕生日だった為、お店からケーキも頂きました。

御一緒した皆さんにハッピーバースデーを歌って頂き私にとっては最高の時間でした。ありがとうございました。

3日目はオプションでディズニーランドへ向かいましたが、疲労がたまっていたせいで、早々に引き上げてしまいました。

この度の訪問団に参加させて頂き、家族ともども素晴らしい思い出ができた事は言うまでもありません。市長をはじめ同行して頂いた皆さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。次に息子からです。

とても楽しかったです。僕は初めて外国に行きました。みんなとても親切でした。拾った1セントを店員さんにあげたら、逆に貰ってしまいました。ホテルに着くとすぐ体調が悪くなってしまいました。入国審査や会話では頼られていたので、もうへとへとでした。飛行機では映画館でしか見ることのできない映画もありました。ゲームも楽しかったです。

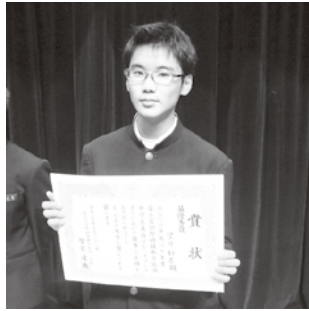
また再来年も訪問団の一員としてはりきりたいと思います。



中学生英語スピーチコンテスト

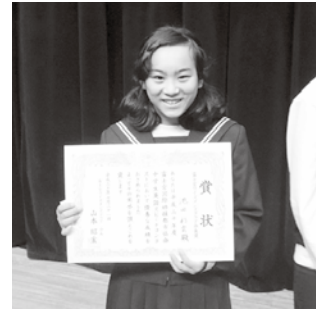
市内中学生による
自作スピーチの発表

★最優秀賞



Return a favor
もちつき とむ
望月 都夢

★富士宮ワイズメンズクラブ会長賞



When I grow up...
いけだ あやも
池田 彩雲

その他の出場者

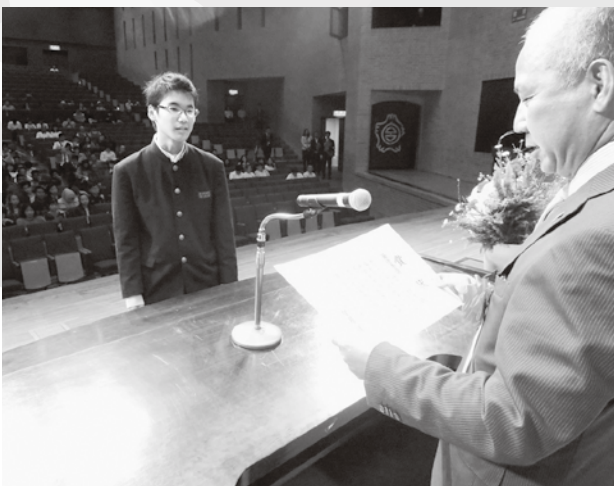
タイトル	名前
My Hometown	こやま せい 小山 星
What can we do for the 2020 Tokyo Olympics?	あかいけ のぞみ 赤池 希海
A wonderful experience in New Zealand	もり こなつ 森 小夏
Mt.Fuji I'd like to tell	いしかわ ななか 石川奈々加
New Zealand is my teacher	いづみ りん イヅムラ凛
What I learned in New Zealand	かとう ゆうな 加藤 優奈

Return a favor 「恩返し」(抜粋)

My mother is very kind. If I have a question, she guides me very kindly. If I am in trouble, she gives me appropriate advice. I am proud of my mother.

People have both good and bad side. I love my mother as she is. Because she raises me up. Of course, I am thankful to her. So, I would like to return a favor to her. I think passing the school of my first choice is the biggest gift for her.

受賞者の声



英語のスピーチへの挑戦は初めてではなく、学校内で行われていたスピーチコンテストのオーディションに参加したこともあります。その時は残念ながら落ちてしまいました。そんな中、富士宮国際姉妹都市協会のスピーチコンテストにリベンジを兼ねて応募しました。

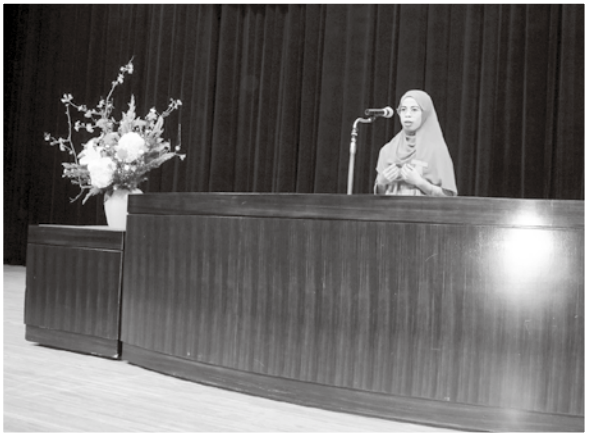
実は Return a favor は締め切り直前に完成させたものなのです。元々は将来の夢について書こうと思っていました。でも、書き始めようとしたら、仕事をして疲れ果てた母が目に入りました。それでも家事をこなす母。それを見て途中まで書いていた原稿を全て消し、母の事について新たに書き始めました。発表することが決まってからは、母や姉、学校の先生に強弱や表現の仕方などを中心にってもらいました。本番ではちょっとしたミスもありましたが、堂々と話せました。

本当は学校で行われていたスピーチコンテストに参加したかったです。しかし、落ちて歩みを止めてしまったらそこで終わりです。希望を捨てず歩み続けてみたら輝かしい未来がありました。これからも希望を捨てずに生きて行きたいです。

望月 都夢

スピーチコンテストの様子

A.C.C. 国際交流学園と共同で開催



ACC 国際交流学園生徒の日本語スピーチ



パネル展を開催し、事業の紹介を行いました



民族ダンスの披露



バンブーダンスで会場を盛り上げてくれました



小山 星さん



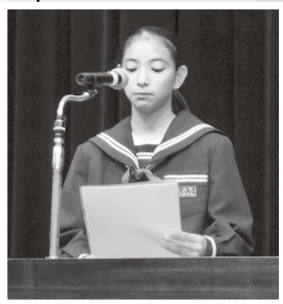
赤池 希海さん



森 小夏さん



望月 都夢さん



石川奈々加さん



イワムラ 凜さん



加藤 優奈さん



池田 彩雲さん

平成31(2019)年度 総会のお知らせ

- 日程：5月8日(水) 午後3時～ 会場：富士宮市役所 4階 410会議室

平成31(2019)年度の主な事業予定

- サンタモニカ高校生徒受入……………4月12日(金)～14日(日)
- サンタモニカ交換学生事業……………7月～8月に実施
- 中学生英語スピーチコンテスト……………秋頃実施

*詳細は随時HP・facebook等でお知らせします

姉妹都市サンタモニカ高校 日本語クラス生徒が富士宮市にやってきます！

ホームステイボランティア募集！！

ホストファミリーに
なりませんか？

4月12日(金)～14日(日)
2泊3日のホームステイ！！



1家庭、1人を受け入れていただきます

ボランティア募集期間：～平成31年3月6日(水)
訪問予定人数：40名程度

申し込みは、協会事務局（最終ページに記載）までご連絡ください。

会員募集のお知らせ

当協会は、会員の皆様からお預かりした会費により事業運営をしております。
皆様の会費や寄付により、富士宮市の将来を担う若者たちのために、より多くの英語発表国際交流の機会を提供することができます。御協力をお願い致します。



FISCA facebook 随時更新しています！
各種事業の様子や募集案内、
サンタモニカの紹介など情報発信中！！

友達申請お待ちしております⇒





各種 引き出物

贈答品

PR用品

ハートギフト宮北店

富士宮市宮北町174
Tel.0544-26-5352

快適な住まいをあなたに

株式会社 赤池工務店

総合建設 (建築・土木) 設計施工



〒418-0001

富士宮市万野原新田3156番地の8

TEL (0544) 27-2168(代)

FAX (0544) 27-8782

E-mail: tabldcc@taupe.plala.or.jp



割烹旅館ならではの贅を尽くした料理の味わい
和の趣のある美しいたたずまい 細やかなおもてなし
皆さまの心を癒す静かな空間をお創り致します

〒418-0039

静岡県富士宮市野中1085-4(富士宮ゴルフクラブ下)

TEL 0544-27-7000(代)

FAX 0544-24-0104

E-mail: ishida@tachibana-fuji.co.jp



あなたの未来を 共に創る パートナー

アイザワ証券は金融商品のご提供だけでなく、
様々なお悩みを解決するお手伝いをいたします。

- ・インターネット取引の仕方を教えてほしい
- ・アジアの成長が気になる
- ・遺言書の書き方がわからない
- ・相続税がいくらかかるのか知りたい
- ・取引先や販路を増やしたい
- ・事業承継に悩んでいる



— アイザワ証券 —
Cross-Border Solution

おかげさまで創業 100 周年

アイザワ証券 富士宮支店

〒418-0066 静岡県富士宮市大宮町 10-3

TEL: 0544-24-3111 (富士宮駅北口徒歩 5 分)

www.aizawa.co.jp



海外旅行保険

☆海外旅行中のケガや病気に備えて



Basic Plan

短期旅行プラン

Study Abroad / Long Stay Plan

留学・長期ステイプラン

【お問い合わせ先】



創業 1966 年 保険のワタナベ

(有)インシュアランスブレイン

〒418-0067 富士宮市宮町 4-7

電話 0544-26-5882 FAX0544-23-7944



富士宮の介護サービス

Sansei
有限会社サンセイ

- 居宅介護支援
- 小規模多機能型居宅介護
- グループホーム

「第二の家族になりたい」それが私たちの願いです。

利用者様やご家族様が心豊かに、共に明るく過ごせるよう、
第二の家族となれるようお手伝いさせていただきます。



有限会社サンセイ本社

〒418-0001 富士宮市万野原新田 4138-4

→お問い合わせ先

TEL0544-28-3567

HP <http://sansei-kaigo.net/>

サンセイ 富士宮



交換学生募集のお知らせ



高校生のみなさん！富士宮市の姉妹都市サンタモニカで異文化体験してみませんか！
期間中は、現地高校生とペアを組み、お互いの家庭で約2週間ずつ、家族の一員として生活します！

ホームステイ in サンタモニカ

毎年 夏期休暇に合わせて実施！
渡航費用を一部補助します！

派遣：2019年7月25日～8月6日(予定)

受入：2019年8月7日～8月19日(予定)



- ★対象 高校生
*市内在住、または市内高校に通学
- ★募集人数 3人(予定)
- ★申込期間 4月20日まで

編集後記

今年度から事務局に加わり、歴史あるサンタモニカ・富士宮の交流に携わることができてとても貴重な一年となりました。交換学生事業では1か月の交流を通して大きく成長する学生の姿を目の当たりにしたり、訪問団では現地の方々との長く続く交流の一部になることができたり、スピーチコンテストでは日頃の成果を精一杯表現する中学生の姿に心打たれました。

まだまだ至らないことだらけですが、より多くの両市の人々のふれあいのお手伝いができるよう精進してまいりたいと思います。

事務局 谷津倉 愛



いつでもお問い合わせください！

富士宮国際姉妹都市協会事務局 富士宮市役所 市民交流課内

Tel 0544(22)1486 Fax 0544(22)1284

Email:koryu@city.fujinomiya.lg.jp <https://www.facebook.com/fiscafujinomiya>

Instagram
はじめました！

